
教育総合センター だより

NO. 107

平成20.3.1

仕事選びの難しさ

尼崎市教育委員会

学校教育部課長 西川 和仁



寒い朝、「おはようございます。」校門周辺を清掃している生徒と先生が交わす爽やかな挨拶や、さりげない先生の言葉かけ。何とも言えないほのぼのとした情景に心が温まる思いがする。

学校現場を離れてもう14年。教育行政に入って確かに尼崎市を始め県下の多くの方々と知り合う機会にも恵まれた。しかし、何といても学校が一番、教師の仕事は素晴らしい。

さて、最近若者の仕事選びをめぐり、様々な議論がある。では振り返って我々大人の職業観は一体どうであったのか。「何のために働くの？」と問われれば、様々な答が返ってくるだろう。しかし、「なぜ『今の仕事』でなければならなかったの？」という問いに対して、端的かつ明確に答えられる大人はそう多くはないのではないか。自己と現実の狭間の中で、何とか『今の仕事』を選び、生きるために働いてきた。その中でそれなりのやりがいと幾ばくかの楽しさを見出してきた。

『今の仕事』に対する大半の実感は、このようなものに思える。やりたいことへの拘りや諦めだけが今風の職業観だとは思わ

ないが、行き先不透明な変化の激しい時代において、我々大人が今まで経験してこなかった「仕事選びの難しさ」があると思う。

「あなたに適した仕事を何でも選びなさい。」と言われても、多くの子どもは分からない。「見つかるまでゆっくり探せばよい。」という優しい言葉が逆に子どもを苦しめているとも思える。いっそのこと「文句を言わず働け！」と言われたほうが、気分は軽くなるかもしれない。

とにかく、凡人でも真面目に働けば生活できる、そんな普通の仕事に就くことが大切ではないか。働く途中、作家になりたいければ職場に書くべき日常のヒントが、お笑いの道に進みたければ、ともに共感を生む笑いの種が見つかるかもしれない。もちろん、その仕事自身に今まで感じなかった新たな価値や楽しさが見つかるかもしれない。

何事にも流されず、一步一步自分の意思で生きていくことの大切さとともに、働くことを通して、その意味を見つけていく道もあることを、大人社会からのメッセージとして、子ども達にしっかり伝えていくことも大事ではないかと思う昨今である。

近畿地区教育研究(修)所連盟研究発表大会に参加して

■ 徐々に高まる期待感

平成19年11月14日(水)、奈良県立教育研究所において、「平成19年度近畿地区教育研究(修)所連盟研究発表大会」が開催された。本大会が開催される本館に入ると、広々とした玄関ホールに迎えられ、二階のロビーまで吹き抜けた造りにとても開放的な明るさを感じた。また、開会行事の挨拶から、職員の方々が各ニーズに対応した指導・支援及び研修充実のため、日々研鑽されていることを知った。そのような場で、一日学ぶ機会を得られたことに喜びを感じ、期待を高めた。

■ クモから学ぶ

舞台上に登場されるや、スパイダーマンのように、手から「くもの糸」が席に向かって放出された。講師である奈良県立医科大学教授の大崎茂芳氏による講演の開始である。「くもから学ぶ危機管理と信頼性」これが全体講演の演題であった。講演に関する資料には、大崎氏がくもの糸を無数に集めて作った縄にぶら下がっている写真が掲載されている。人がぶらさがれるほどくもの糸は丈夫なのか？その答えこそが「くもの糸の秘密」であった。その大きな秘密とは、一見一本に見えるくもの糸は、電子顕微鏡で見ると円柱状の二本の糸から成り立っており、糸は非常に丈夫なつくりになっているのである。常に予備があるというくもの危機管理である。大崎氏はこれを教育にも置き換えて述べられた。私は、「教育における指導・支援も常に最善であるとは限らない」という危機感が、時として必要なのではないかと捉えた。自らを振り

返るきっかけを頂いた非常に素晴らしい講演であった。

■ 実践を振り返る 研究発表会にて

午後から、5会場に分かれ、各会場で3グループずつの発表が行われた。第1会場での最終発表は「確かな言葉の力を育てる指導の研究 - “子どもの豊かな学び”の土台となる漢字学習の指導方法 - 」であった。平成18年度の尼崎市立教育総合センター研究員の守屋貴哉教諭(大庄小)が実践発表をされた。平成18年度の研究実践から「児童が自ら進んで取り組むための新出漢字の指導方法」について有効な手立てが明らかになったというものである。最後の質疑応答を聞き、簡潔明瞭なプレゼンテーションが、初めて聞く参加者にも大きな共感と理解を得ていると確信した。特に反響を呼んでいたのは、発達段階に応じた漢字学習における工夫の必要性についての説明である。つまり、低学年では「漢字を書くことが好き」という実態から、どんどん書く活動を取り入れて定着を目指すことが適しており、高学年では、それを好まないことから、自ら進んで取り組む姿勢を引き出すような授業や家庭学習の進め方の工夫が必要であるということであった。研究員として一年間研究に携わっていた私自身にとっても、自らの実践を振り返る大変良い機会になった。また、研究に携わる喜びと満足を感じると同時に、更なる自己研鑽に努めていきたいと気持ちを新たにした。

(参照『教育総合センター研究報告書』紀要44号27頁～)

(尼崎市立園田北小学校教諭 磯野 明子)

特別支援教育の今後について

1 特別支援教育の国の動向

特別支援教育の方向性が示されたものとして、平成15年3月に文部科学省から出された「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」がある。その中で、特別支援教育の定義等が示された。

平成17年12月には、「特別支援教育を推進するための制度の在り方について（答申）」が出され、特別支援教育の理念と基本的な考え及び、盲・聾・養護学校制度、小・中学校における制度、教員免許制度の見直しについて述べられた。そして、平成19年4月より、学校教育法の一部が改正され、特別支援教育が本格実施された。

2 尼崎市における特別支援教育

尼崎市の特別支援教育は従来からの障害児教育の成果を踏まえ、継承、発展させるものである。

平成17年度から、兵庫県教育委員会から特別支援教育体制推進事業の地域指定を受けて、全小・中学校と一部幼稚園において、調査研究協力校として委嘱された。その中で、全小・中学校に校内委員会を設置し、特別支援教育コーディネーターの指名を行った。

また、幼・小・中学校合わせて、20校園に巡回相談を実施した。巡回相談員としては、尼崎養護学校、阪神特別支援学校の教諭、市教育委員会の指導主事である。

平成18年度では、40件の巡回相談を行った。

平成15年度から、ADHD等の特別な支援を必要とする児童等が在籍し、困難を抱えている小・中学校に心の教育特別支援員を配置している。平成15年度では3人を6小学校に、平成16年度では12人を12校に、平成17年度では12人を18校に、平成18年度では、12人を24校に、平成19年度では15人を30校に配置している。平成20年度では支援員を増員する予定である。そして、心の教育ボランティアの派遣も考えている。

3 特別支援教育の今後

「特別支援教育の定義」の中に、「障害のある児童生徒に対してその一人一人の教育的ニーズを把握し、・・・適切な教育を通じて必要な支援を行う」と示されている。キーワードは『一人一人の教育的ニーズ』であるとする。これは従来から障害のある児童生徒にかかわらず、教員が意識してきたことがらであるはずである。しかし、今日の学校においては、学級崩壊、いじめ、不登校等、児童生徒の問題は山積している状況である。もう一度、一人一人の児童生徒に対して何が必要なのかを考えながら取り組む姿勢を教師自身が考える時期なのかもしれない。その意識改革も含まれているように思われる。

(特別支援教育担当係長 横井哲男)

【教育総合センター 教育情報コーナー 図書紹介】

学校生活に役立つ本をご紹介します。春休みにいかがでしょう。
貸出しもできますのでぜひご利用ください。

* 保護者対応の参考になります

『校長・教頭のための困った親への対処法!』	尾木直樹著（教育開発研究所）
『信頼でつながる保護者対応』	飯塚峻・有村久春著（図書文化）
『保護者宛文書トラブル回避術』	小島宏編（教育開発研究所）
『悲鳴をあげる学校～親の“イチャモン”から“結びあい”へ』	小野田正利著（旬報社）

* コーチングを有効に使ってみよう

『図解 先生のためのコーチングハンドブック』	神谷和宏著（明治図書）
『子どもの心のコーチング～親にできる66のこと』	菅原裕子著（リヨン社）
『なぜ、だれも私の言うことを聞かないのか? できる上司になるためのコーチング』	鈴木義幸著（日経BP社）
『元気をつくる「吉本流」コーチング』	大谷由里子著（ディスカヴァー）

* 子ども達の、心とからだづくりは学校生活の基本です

『生活習慣の改善と子ども力の育成』	明石要一編（教育開発研究所）
『学校で実践! 子どものからだ・心づくり』	野井真吾編（教育開発研究所）
『心理学を取り入れた生活習慣病予防プログラム』	山崎勝之編著（東山書房）
『先生と保護者のための子どもアレルギー百科』	向山徳子著（少年写真新聞社）

* 子ども達のさまざまな問題行動に、やはり先生が頼りにされています

『実践に基づく毅然とした指導～荒れた学校を再生するマニュアル』	山本修司編（教育開発研究所）
『必ず役立つ問題行動防止ハンドブック』	奥野真人著（学事出版）
『小学校高学年女子の指導～困ったときの処方箋』	赤坂真二著（学陽書房）
『子どもを伸ばすほめ方叱り方51のヒント～子育てが楽しくなる本』	中井俊巳著（学陽書房）

開館時間のご案内	発行 尼崎市立教育総合センター
平日 午前9時 ～ 午後9時	尼崎市三反田町1丁目1番1号（.06-6423-3400）
《ただし、教育相談および視聴覚ライブラリーは午後5時15分とします》	発行者 神田 光
なお、次の日は取り扱いいたしません。【土曜日・日曜日・祝日・年末年始】	題字 尼崎市教育委員 岡本 元興